



情報ライブラリーだより

テーマ/スポーツと男女共同参画

貸し出しBEST 5

- 1位 **妻は他人**
さわくち けいすけ/著 (KADOKAWA)
- 2位 **終わった人**
内館 牧子/著 (講談社)
- 3位 **ありがとうって言えたなら**
瀧波 ユカリ/著 (文藝春秋)
- 4位 **「逃げ恥」にみる結婚の経済学**
白河 桃子・是枝 俊悟/共著 (毎日新聞出版)
- 5位 **まいにち引き寄せ**
奥平 亜美衣/著 (KADOKAWA)

パレア9階情報ライブラリーでは、男女共同参画、生涯学習、NPOに関する図書などの貸し出しを行っています。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

よくわかるスポーツとジェンダー

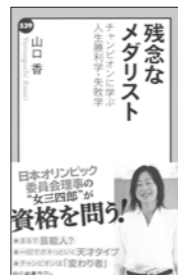
飯田貴子/熊安貴美江/
来田享子 編著 ミネルヴァ書房 出版



スポーツにおける性に関わる人権問題を取り上げ、ジェンダーの視点から分かりやすく解説。さまざまな問題の解決の糸口を探るジェンダー学の入門書としておすすめ。

残念なメダリスト

山口香 著
中央公論新社 出版



柔道家で日本オリンピック委員会理事の山口香氏が、世界に通じる真のチャンピオンとしての資格やそれを支える社会のあり方を問う。著者からの問題提起をあなたは読む？

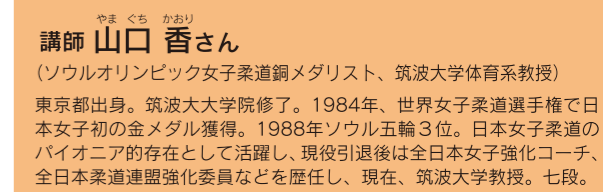
男女共同参画 in パレア 講演会
オリンピックメダリスト 柔道家 山口香氏講演会

夢をあきらめない 生き方

オリンピックメダリストで、筑波大学教授の山口香さんを講師に迎え、講演会「夢をあきらめない生き方」を9月15日(土)、県民交流館パレアで行いました。約250人の観客を前に、自身の経験やスポーツ界における男女共同参画の課題などについてお話をいただきました。

山口香さんは、東京オリンピックが開催された1964年に誕生。当時、女性がスポーツをすることはまだ一般的でない中、テレビドラマ「姿三四郎」に憧れ、6歳から柔道を始めました。男子と同じ練習をすることを条件に道場に入り、13歳の時に、この年初めて開催された全日本柔道体重別選手権大会の女子の部でチャンピオンになりました。

現在では、オリンピック出場選手の男女割合は、ほぼ同数であり、女性アスリートの活躍も目覚ましいものがあります。しかし、オリンピックに同行するコーチの女性割合は約2割、日本オリンピック委員会加盟競技団体における女性委員の割合は1割程度と意思決定の場で活動する女性は未だ少ないのが現状です。「指導者や審判、役員などに女性を増やしていくことが、女性がスポーツをやりやすい環境にし、組織を風通し良くし、スポーツ全体の底上げになる」といいます。



講師 山口 香さん
(ソウルオリンピック女子柔道銅メダリスト、筑波大学体育系教授)
東京都出身。筑波大大学院修了。1984年、世界女子柔道選手権で日本女子初の金メダル獲得。1988年ソウル五輪3位。日本女子柔道のパイオニア的存在として活躍し、現役引退後は全日本女子強化コーチ、全日本柔道連盟強化委員などを歴任し、現在、筑波大学教授。七段。

山口さんは、自身が経験した女性への偏見や差別を振り返り、その責任を男性だけに押し付けるのではなく、「女性も変わる必要がある」と強調します。東京オリンピックから約50年がたった今、スポーツ界において女性をとりまく環境は大きく変化しています。2020年を目前に控えた今、「私たち一人ひとりが、そのような偏見に気づき、向き合い、行動することが、50年、100年後のより良い社会につながる」と山口さん。「一人ひとりが、個々の能力や違いに価値を見出し、お互いが相手に寄り添う気持ちを持って、男性も女性も、障がい者も高齢者もすべての人の力が生かされる社会になっていくのではないかと信じています」と結びました。

「四賢婦人物語」に学ぶ

～時代を切り開いた矢嶋姉妹 その①

文・齊藤 輝代

待っていてはだめ 自ら行動を

幕末の頃、益城町杉堂の物庄屋矢嶋家に誕生した竹崎順子、徳富久子、横井つせ子、矢嶋順子の四姉妹は「賢婦人」として益城町が顕彰されていますが、ご存知でしょうか。姉妹のごさは、女性の人権などなかった時代に自ら行動を起こし、命尽きる時まで男女平等社会の礎を築くために尽力したことです。

矢嶋家の四女久子は、継嗣(けいし)を生むだけの嫁の立場に疑問を抱きます。女性自身の意識を高めるには教育が第一だと考え、同志と共に私立熊本女学校設立のための行動を起こします。久子の意志を受け継いだ姉順子は粘り強く女学校存続に尽力し、男女を問わず多くの支援者を得ました。

六女榎子は40歳で上京し、教員資格を取得します。その後、東京の女子学院院长、日本キリスト教婦人矯風会会頭となり、92歳の最期まで女性解放、地位向上のために働きました。没後、93年が過ぎました。



来年度、益城町から発売予定の「まんが 四賢婦人物語」(価格未定)。原作を担当

さて、日本の2017年ジェンダーギャップ指数[※]は世界144カ国中114位。前年より3位落ちていきます。この現実をどう考えたらよいのでしょうか。

働く多くの女性は、家事・育児との両立に悩んでいます。私も20代の終わり頃、近くに保育園がない職場に転職し退職を考えました。その時、義父母が「孫の世話をするよ」と言ってくれました。家族の家事や育児の分担が、働く女性に力を与えます。両立を女性だけの責任にしない社会の実現が待たれます。いや、待っていてはだめだよと、矢嶋姉妹の叱咤激励の声が聞こえてきそうです。女性自身が具体的にどう輝くのか、目標を持ち、社会の仕組みと意識改革に取り組むことが大切でしょう。

※ジェンダーギャップ指数/世界経済フォーラムが公表している各国の男女格差を示す指標。経済活動や政治への参画度や教育水準、出生率、健康寿命などから算出されています



前半は、解決したい課題や実現したい夢についてワールドカフェ形式で話し合いました

DATE
日時:平成30年7月28日(土) 13:30～16:00
講師:平田隆之氏
(NPO法人市民プロデュース理事長)
グラフィック・レコーディング:小柳明子氏
(NPO法人市民プロデュース理事)

男女共同参画 in パレア マインドアップセミナー① 震災から2年、新しい視点で考えるまちづくり ～これからの連携・支援、作戦会議！～

多様な分野の活動家が集合
より良い熊本の復興について考える「震災から2年、新しい視点で考えるまちづくり」これからの連携・支援、作戦会議！を7月28日、パレアで開催しました。
参加者は、復興支援やまちづくりに取り組む団体、個人など31人。参加者から挙がった「若い世代による防災対策、場づくり」「災害時の性犯罪防止」などのテーマごとにチームで話し合い、提案を発表。「さまざまな世代が意見を言い合える場づくり」とコネクトが必要など、多様な視点から意見を出し合いました。

最後は、絵や図を使って話し合いの内容を記録したグラフィック・レコーディング[※]で内容を振り返り。参加者からは「思いがけず、自分の考えを整理できた」「いろんな専門分野の人の声が聞けてよかった」などの感想が寄せられました。